

# 題：新媒體の将来像

名前：

媒体の一形式としての新聞や雑誌の役割は、消乏はしないだろうが、限定的になるべきであると考えている。

この問題は新聞・雑誌に限定した話ではなく、むしろ「新媒體の将来」というテーマで考えるべき問題だろう。問いの意味を考えるなら、今のインターネット上のニュースは主に新聞社や雑誌社が流している以上、そういう組織の存在意義についての議題ではないからである。個人（最近、非営利主体）によるブログ等での発信が新聞組織を越えるか、という問いではないと判断した。

では、前述のテーマの次で考えるべきだろうか。これは技術の発展、経済格差、環境問題がこれからどう展開するかということにかかっている。確かなことは言えない。しかし、もし簡単に扱うと、十数万冊分以上の情報を保存でき、安価で多くの人の手に入り、紙より丈夫で、しかも同じ役割をこなすために必要となる紙よりも環境負荷の小さい

な「電子ノート」が実現したと仮定するならば、もはや紙媒体の出番は全くなくなるだろう。

だからこれからの紙媒体の存在意義は上記条件のうち電子ノートが果たせなか、な部分を担うこと、と言える。私は実情を知らないが、恐らくは耐久性と価格の点では紙がこの失も一日の長を保ち続けるのではないかと思う。

以上の考察を元の論題に適用してみよう。ニュースとは広く社会的弱者にまで伝、てこそ意味があるものである（上にいる人間は独自の情報源を有しているものだ）から、「手に入れやすさ」が電子媒体に優、ている限り紙の役目はなくなるものではない。さらに付け加えると、過去の情報の保存ということまで考えるならば、紙という最後のとりでが電子データとは別に残、されてい、る方がリスク管理上好都合だろう。つまり、目的を限定して数を少なくしつつも消乏はしない、というのが新聞・雑誌のこれからである。